平成28年度介護予防サポーター活動支援事業の成果と課題

1　28年度の事業概要

高齢者の自主的な社会参加を奨励し介護予防につなげるために実施している。27年度まで実施していた介護支援ボランティア事業の活動受入先が事業所に限られていたものに、地域を対象に加え、28年4月から介護予防サポーター活動支援事業として実施した。

サポーター活動に対するポイントは、指導者（500）と一般（100）、事業所は（100）及び、地域で活動する場合はサポーターが住んでいる地域（100）と住んでいない地域（500）を分けて付与することとし、実施した。

2　成果

①　研修会の実施

サポーターの資質の向上のために年間2回の研修会を実施した。

②　活動受入場所の登録が増えた（27年度→28年度）

サポーター登録数　154→213、地域登録　0→18、事業所登録　15→14（3減2増）

③　活動受入先の活性化につながった

活動受入場所の活動メニューの充実及び活動先の世話役の負担軽減に役立った

3　課題

①　一般サポーターと指導者サポーターとの違い、サポーターの役割及び支援の範囲について、個々のサポーター、各活動受入先で異なる認識が一人歩きし事業展開に支障が出始めているため、共通理解を促す必要がある。

②　指導者サポーター及び活動受入場所は報告書の提出をすることとしているが、提出のなかった「ゆい」サポーターや特定の地域、事業所からの提出を促すこととする。

③　今後3～4月は、サポーター活動ポイントの集約業務（ポイント換金、統計処理）と次年度のサポーターと地域・事業所活動受入登録の同時進行が大変煩雑となることが見込まれる。

4　29年度の取組み概要について

①　サポーター及び活動受入先の研修をとおして、事業の理解を深め、円滑な実施を図る

②　新規のサポーター、活動受け入れ先の登録を進めるにあたり、広く普及するための見直しを検討する

③　福祉会や社会福祉協議会ボランティアセンターとの関係について検討する。

平成２８年度古賀市地域活動サポートセンター通所等事業の成果と課題

１　事業概要

① 古賀市地域活動サポートセンターに通所することで、高齢者の自発的な地域支援活動に向けた資質の向上、技能の習得及び仲間づくりを進める。

② 通所の利用者を介護予防サポーターとして活用することとしている。

２８年度　延利用者数３，０１９名、新規利用者数３７名、
実利用者数２１４名

２　成果

① 「ゆい」出前講座数が増えた（音の輪会については、音楽サポーターに記載）

	活動した個人団体	実施回数	支援対象者数
２７年：	５（延３２名）	５	１２４名
２８年：	７（延８２名）	１７	３７２名

② 通所利用者に昼食を出す日数を３分の１減らすことで、食事にかかる職員の手間を減らし、地域支援に出向きやすい環境を整備した。

③ 利用者の利便性の向上のため、外履きで建物内を利用ができるようにした。

３　課題

① 古賀市地域活動サポートセンター利用者で介護予防サポーター登録者数は４４名であり、登録の働きかけが必要である。

② 短期宿泊事業の利用が１件だった。

③ 「ゆい」サポーターは、報告書をきちんと提出するようにする。

４　２９年度の取組み概要について

① 出前活動の拡大を図る。

② 屋根の雨漏り修繕、風呂のボイラー修繕、洋室の空調機修繕、談話室等ブラインド修繕、主な照明のＬＥＤ化、を実施する。

③ 出前（４～７月）８回実施。

④ 利用者にサポーター登録の働きかけを行う。

平成２８年度介護予防音楽サポーター事業の成果と課題

１　実施概要

① 介護予防音楽サポーター養成講座：　講座 12 回、実習 3 回　計 15 回実施
② フォローアップ講座　　：　5 回実施
③ 古賀市の音学校　　：　町川原 1 区・2 区　2 地域で開催
④ 地域が自主的に行っている介護予防音楽教室　　：　10 地域で開催
　　薬王寺・谷山・町川原 2 区・日吉台・上米多比・古賀北・花鶴丘 3
　　千鳥東・えんがわ・舞の里
⑤ 鍵盤ハーモニカ出前講座　　：　7 地域で実施
⑥ 活き生き音楽交流会　　：　平成 29 年 2 月 24 日開催　15 団体 179 名参加
⑦ 活動支援テキスト家トレ第 1 弾を作成

２　成果

① 平成 27 年度養成講座受講生（1 期生）がそれぞれ地域の教室で活動している。
② １期生は、「音の輪会」として自主的に月 1 回集まって情報交換や勉強会を実施した。
③ ファーストペンギンによる出前講座を 7 地域で実施し、5 地域で音楽教室が開催されるようになり、音の輪会が支援をおこなっている。
④ 交流会の開催は、お互いの演奏を聴けて刺激となり、意欲の向上につながった。

３　課題

① 指導者サポーター３名では、地域の音楽教室でサポーターのみで活動するケースもあり、負担を感じるという声もあった。また、指導者サポーターの基準があいまいとの問題点の指摘も多かった。
② 養成講座２期生は、自身の地域活動のみにとどまる傾向にあり、もっと積極的に活動の場を拡げるように担当より声かけを行う。
③ 音楽サポーターのなかに、他のサポーターの技術が上がり、ついていけないサポーターで支援活動を辞める事例が出始めている

４　２９年度の取組概要

① サポーターが活動する音楽教室も 2 年目を迎えるところが多いが、参加者が減少している地域は参加者ニーズを取り入れながら、継続するための工夫を心がける。
② 音の輪会定例会の存在意義を見直しながら、多くの養成講座修了生を取り込みつつ、鍵盤ハーモニカの練習や勉強会など有意義な集まりを目指す。
③ いろいろな地域行事（敬老会、七夕会など）で、演奏する事を目標に練習するなど積極的な姿が多く見うけられる。
④ 音楽活動が入っている地域の実情を見ながら、地域リハビリテーションの導入を図る。
⑤ 音楽サポーターで、活動支援テキスト家トレ第 2 弾「家トレ BOOK　Vol. 2」を作成する。

平成２９年度古賀市委託事業について（２９年４月～７月現在）

１　古賀市介護予防サポーター活動支援事業の現状と今後の展開

① 古賀市地域活動サポートセンター通所利用者を地域支援につなげる仕組の定着が必要と思う。

② 介護予防サポーター活動受け入れ先（の担当者）に、研修を通し事業に対する正しい理解が必要と思う。

→　２９年度マッチングのため申請書に書いてある受入先担当者に連絡したが、本人に自覚がなく（本人が知らない場合もある）、マッチングに手間どった。

→　２９年度のマッチングをするために、活動受入先に２８年度のサポーターを確認したが、受入先は、誰が来ていたのか把握していなかった。

③ 活動受入先及びサポーターについてそれぞれ役割と自主性について確認していく必要がある。

→　活動受入先には、支援プログラム以外の会場準備等「お手伝い」を期待するところがある。

→　サポーターのなかに「頼まれたので行っている」意識で活動されている方もいて、自主性が求められる。

④ ポイント付与の基準が明確でない。

→　５００ポイント対象の方が、１００ポイントで活動されてある方と一緒に支援活動をしていて、自分だけ５００ポイントでは申し訳ないとの理由から１００ポイントのスタンプをもらっている。

→　事業所で１００ポイントで活動するサポーターから「ゆい」関係サポーターは、「なぜ５００ポイントなのか」と質問があった。

→　「ボランティア活動は気持ちで行うものと思っているが、金額でボランティアの価値が高い、低いと評価するのか」と質問があった。

→　研修会を受講する前であってもポイントが付与されている。今後も研修を受けるように促していく必要がある。

⑤ ポイントの集計チェックが困難。

・手帳、自分の報告書、受入先の報告書が一致しない、

・ポイントの押し間違い、押し忘れ、

・依頼書が出ていない活動にポイントがついている、

・「ゆい」出前等、様々なパターンがあり複雑になっている。

今後、サポーターや活動受入先が増えることで、確認作業の複雑化と増大が見込まれる。

※　基準のあいまいさや福祉会活動、社会福祉協議会ボランティアセンター活動との関係が不明確な点が地域やサポーター間に広がっている。今後の対応に苦慮している。

２　高齢者プランニング講座の進捗状況（予定を含む）

目　　標：心と体の健康を保ち、輝くシニアライフを送る

日　　程：９月９日（土）より１０回講座で開催（別添参照）

実施体制：ファシリテーターの配置

広報啓発：講座案内及び公開講座（２回）のチラシ作成　外部委託

配 布 先：主な公共施設及び行政区回覧を行う

３　「ゆい」事務室に執務して気づいたこと

① 「ゆい」利用者、社会福祉協議会関係者等市民やボランティアの地域活動の窓口を一元化し、人の流れや情報が集まりやすくすることを目的としているが、試行錯誤している。地域活動情報の集約化及び共有が進んで、地域活動を支援する相乗効果が見えてきた一方、受託業務に加え委託外の「ゆい」業務及び社会福祉協議会業務が混在していて対応に苦慮している。

② 電話・コピー等事務環境の整備が遅れていることによる不具合を整備している。